

第21回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会議事録	
議 題	審議事項 議事1 第11回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議） 議事2 その他
日 時	令和4年11月7日（月）午前10時00分から午前11時15分まで
開催場所	横浜市技能文化会館 8階 802大研修室 （横浜市中区万代町2丁目4番地7）
出席委員 （敬称略）	関 和明、大西晴之、真田純子、鈴木智恵子、高村典子
欠席委員 （敬称略）	なし
出席した 幹事・書記	書 記：榊原 純（都市整備局地域まちづくり部長） 白井正和（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関 係 者	【議事1】 関係局：奥村 創（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）
開催形態	公開（傍聴者：0名）
決定事項	【議事1】 応募件数の増加につながるような募集リーフレットの内容や配布場所の再検討、投稿しやすい応募方法の工夫など、本日出た意見を踏まえ、次回の合同部会で付議すること。
議 事	議事1 第11回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議） 資料を用いて、事務局から説明を行った。 （関部会長） 説明ありがとうございました。委員の皆様は2回目ということで、ほぼ基本的な内容をご承知かと思えます。今説明いただいた内容について、ポイントが4つほど挙げられましたが、どの項目でもよろしいので、何か委員の皆様からご意見、ご質問あるいはご提案を含めて発言がありましたらお願いいたしたいと思います。真田委員。 （真田委員） 資料6の「郊外部の案件の割合を増やすこと」という課題に対してですが、第10回の募集リーフレットで受賞景観の例というのが今1つ載っていますけれども、こんなに文章がいっぱいでもよいような気がします。増やしたいタイプの郊外の例とかを写真で示すとか、写真の選び方も、人しか写っていないと分かりにくいというのもあるので、リノベーションしたようなものやもう少し道沿いの何かをしたものとか分かりやすいもので、一言で伝わるような説明で幾つか増やしたい案件の事例写真を入れると、応募する側へもこういう感じのものでいいのだというのが伝わるのかなと思えました。 （関部会長） ありがとうございます。第10回のは確かに、子供と流しそうめんか何かのイベントをやっている場面の写真でしょうか。 （真田委員） よく読めばそういうことかと分かるのですが。 （関部会長） 以前から郊外部の案件は応募が少ないということと、これまで計10回あってもまだ一度も受賞された案件がない区があるという課題を前回は感じておりましたが、リーフレットのデザインの中で、もうちょっとぱっと見たときにこういうものがあつたと喚起するようなデザインなり内容の工夫なりは課題かなと思います。ありがとうございます。 （鈴木委員） 応募を増やすための広報活動で、区役所でパネル展示をなさっているということで、私は港北区役所のすぐ近くなので行きたいと思いますが、いつやっているのですか。いつからいつまでこの区役所でやりますというのは、景観調整課のインターネットか何かで見ないと分からないということですか。たまたま区役所に行った人がパネル展を見かけて、こんなこともやっているんだというのも大事

ですが、私は見たいと思っけていても1回も見たことがなくて、パネル展をやっていること自体があまりよく知られていないということだと思うので、もうちょっと知らせたほうがいいのではないかといいのが1つです。

それと募集リーフレットとかそういうものを配布する場所について、例えば各区の図書館とか、もうちょっと小さくなると地区センターがありますけれども、図書館はロビー回りなどにさりげなく設置していると、結構熱心に見ている方もいるので、それも必要なと思いました。あと、知られていないという点では、募集リーフレットとかそういうものを図書館とか地区センターにも置いて、それを来た方が手に取って見るというのは、割合、広報になるのではないかと思いました。区役所の場合は用事がある人が行って、その用事だけ済ますとぱっと帰ってしまうパターンが多いと思いますが、図書館は本を探しに来たり、地区センターはその地区でお稽古ごとをやったり教室をやったり、そういう方は割と他のことにも関心を持って図書館とか地区センターを利用していることがあると思えますので、そういう方に手に取ってもらえるようにしたほうがいいのではないかと思いました。

(奥村係長)

鈴木委員のおっしゃるとおり、パネル展をやっていることの広報は我々のほうでも少し抜けているところがありましたので、そちらについては今後、周知をもう少し工夫するようにさせていただきます。

それから、募集リーフレットの配布先でございますが、今も図書館や地区センターには置かせていただいておりますので、そういうところにも置いてあるというような広報の工夫といったものは少し検討する必要があると思いました。

(高村委員)

皆さんがおっしゃるとおり、知ってもらうためにということで、私も例えば図書館に募集リーフレットを設置するのはすごくいいと思いました。あと、小学校で校外学習をやりますよね。小学生ぐらいからきつとみんな「まちなみ」や「景観」を何となく分かっていると思うので、あの中に何かそういう視点とかを盛り込んでもらえないかなと思います。あと今、横浜市内に限らずいろいろところでマルシェをやっていて、何で磯子とかは全然応募がないのだろうと。磯子は「いそご丘の上マルシェ」とかがありまして、前回、外壁か何か違うものでしたが、見に行きましたよね、そういうところに知ってもらうために、と思いました。

あと、これから工夫されると思いますが、応募画面への誘導は確かにQRコードがありますけれども、ここでは過去の受賞事例が見られるまでいかないの、それも併せて実施したほうがよいかということと、あと、これからSNSでも発信していかれるということですが、ちょっといいなと思ったらすぐ写真を撮って応募できるぐらいの気軽なものになったら、氏名とか住所は不要になるのではないかなということもちょっと思いました

あとこの、横浜・人・まち・デザイン賞に選ばれて、とても栄誉なことでもみんなに知ってもらえるのですが、具体的にこれを受賞したことによってすごくいいことがあったとか、そういう事例があったら知りたいなと個人的に思いました。以上です。

(奥村係長)

主に小学生の高学年、4年生あたりから対象になると思いますが、我々も景観教育というものに数年前から力を入れて取り組んでおりまして、今も毎年、教員から依頼があった際には出前授業を行っているのと併せて、横浜・人・まち・デザイン賞のことも周知しております。毎年、市立の学校長が集まる会議がありまして、そちらに出向いた際に景観教育の普及啓発と併せて広報しておりますので、引き続きその点につきましてはやっていきたいと考えております。

それから、SNSを活用した募集の仕方のところ、今、高村委員からのご提案もあったとおり少し気軽というか、例えばインスタグラムでハッシュタグをつけて応募ですとか、そういったことも可能性としてはあるのかなと考えております。また、今お話しいただいたようにSNSなどのツールを使うと、過去の受賞案件について再度のPRの場にもなるかなと思えますので、募集時以外の広報にも使えるかなと考えているところです。

(大西委員)

広報とか募集リーフレットの配布先や何かでもうちょっと具体的な話ですが、私は、自分がこれまで関わってきた範囲だと、意外にこういった表彰事業があるのだという認識がなかったように思えます。例えば建築関係の協会だとか、ディベロッパーだとか、ビル業界だとか、住宅業界だとか、今まで、そういった各業界や団体にはこういうものを送付していないのですか。

(奥村係長)

毎回、神奈川県建築士事務所協会や横浜市建築士事務所協会、または神奈川県建築士会にリーフレット等はお送りさせていただいております。

(大西委員)

過去の例からすると、そういうものを送付した協会等からリアクションはありましたか。

(奥村係長)

私の記憶では協会からの応募はなかったのではないかと思います。

(大西委員)

これも全く個人的な意見ですが、例えばディベロッパーにしても、自分たちは利益目的だけでこういうものをつくったわけではなく、街並みと調和しているとか、デザイン的に魅力的であるというようなことを広く知ってもらえるような、この賞を受賞することによってプライオリティーが上がるような位置づけになると、そういう業界や何かでも、横浜でやるのであればそういうものを地域で獲得したいとか、そういう関心自体が出てくるのではないかという感じを持ちました。それから、区役所等での広報ももちろんいいのですが、最近区役所に出かけて行って済ませなければいけない用事というのが減ってきていますよね。非常に便利になったことはありがたいけれども、広報をどうしたらいいかというのは要検討なのかなという気が個人的にします。

(奥村係長)

業界団体等につきましては、他にもないか検討させていただければと思います。また、今の大西委員からの意見に関連して、応募時に簡単なアンケートを実施しております。実態として、この賞の募集自体は市役所や区役所で知ったという方が多いことはありますが、確かに今の世の中の流れとして、区役所に行かないでいろいろな手続もできるということを踏まえると、もう少し広報の工夫の仕方はやっていくべきかと思います。

(大西委員)

もちろん、私も区役所での広報をやめた方がいいとか、そのように言っているつもりはないです。それはそれで必要だけれども、自分も含めてほとんど行かない人もかなりの数いるのではないのかと感じました。

(奥村係長)

区役所に来られる方もある程度はいらっしゃると思いますが、区役所に行かない方にも届く広報というか、そういった両輪でできればと思います。

(鈴木委員)

今おっしゃったように、専門の方、業界の方が自薦で応募するというのと、市民が選んで他薦で応募するのと2つあると思いますが、この賞の前身で、昭和60年から開始した横浜まちなみ景観賞というのがありまして、この頃は、外から見ても賞自体がすごく権威があるような感じでした。私どもが今選んでいるような割と身近な景観というよりも、大きな開発の案件とかすごいなみたいなものが選ばれて、その頃は横浜まちなみ景観賞というのはすごく権威がある賞だと私なんかは捉えていました。今は「横浜・人・まち」と表現も柔らかく優しくなって、これは私の印象ですが、だんだん市民が選ぶ賞みたいになってきている感じがして、あまり権威的な位置づけの賞という感じはしなくなってきていると思います。みんなに愛されるというか、そういういい景観をみんなで選ぼうみたいな感じになっていると思うので、第10回が終わりまして、今度11回目を迎えるに当たって、その辺を整理するときではないかと。要するに、この賞自体に権威を持たせて、ディベロッパーとか様々な団体が絶対あそこの賞を取ってやるみたいな感じで応募されるようになるのか、それとももっと身近な景観ということで市民が選ぶという雰囲気になるのか、どちらがいいのかというのは私も今ここでそういう考えはまとまらないのですが、その辺の位置づけがちょっと曖昧になっています。例えば私たち選考委員の責任でもありますが、自薦の方の案件は応募するのだからと推薦理由をいろいろと書いてくるようになりますが、そういう感じではなくて、市民の方からここが大好きですみたいな感じで応募された案件と、両方が共存できるかというのがちょっと難しいかなと思います。自薦の方たちがこういう工夫をしていますみたいなことを応募時にびっしりと書いていても、必ずしも選ばれてはいないのです。私が選考に臨んだ回では、どちらかというともみんなに愛される景観のほうが多かった印象があるので、そういう業者さん側の努力にも報いなければいけないのかなと、大西委員のお話を聞いて若干反省もしております。だから、横浜・人・まち・デザイン賞をどのように位置づけていくかというのは、ちょっと整理したほうがいいのではないかと思います。

(関部会長)

いかがでしょうか。この賞の意味というか、かつては権威があったけれども、今はやや変わってき

たということかもしれません。

(奥村係長)

確かに鈴木委員のおっしゃるとおり、横浜・人・まちデザイン賞と「人」が入っているのが横浜のオリジナルだと私も思っております。他都市でも景観に関する賞は結構ありますが、対象を建築物に絞っているところが多い印象があります。横浜市としては、景観は「空間」「営み」「感性」の三要素で構成されるという考えがありますので、選考においても「人」の視点が入っているのではないかと思っております。一方で、鈴木委員がおっしゃるとおり、自薦の方は推薦理由もすごくたくさん書いているのですが、第10回するときにも大型の開発案件で選ばれない場合もありました。かといって、人の愛着とかだけで選ぶのはどうなのかなと思うところもあります。この賞の目的は、良好な景観やデザインが都心部でも郊外部でも増えるというのが最終的な目的なのかなと思っておりますので、質というのは一定程度保つ必要があるのではないかと思っております。答えになっているか分かりませんが、ある程度の質は郊外であっても求めていって、いいものを選ぶというスタンスが大事なのではないかと思います。

(関部会長)

どうでしょうか。重要な問題だと思います。

(真田委員)

パネル展についてで、先ほど話にあったように区役所だけではなくいろいろなところでやったらいいかなと思っておりますが、パネルのデザインが人の目を引かないというか、これがあつたところで読もうかなという気には多分ならないと思うので、もう少し写真を前面に出すとか、あとはいろいろなところ、例えば駅とか人が多いところでやるとすると、それ自体がちゃんと風景になるようなパネルをつくる必要があるのかなと思っております。

(鈴木委員)

このパネルは、表彰式のときに飾っていたものと同じものを使っていますよね。

(奥村係長)

おっしゃるとおりです。

(関部会長)

A2サイズですか。縦長のものですよね。

(鈴木委員)

デザイン賞だから、それ自体のデザインも確かに重要かもしれません。

(関部会長)

例えば、パネル展で展示するパネルのデザインは自前でやるとか。

(高村委員)

私もそう思います。例えば「都市デザイン 横浜」展の写真はわざわざちゃんとしたフォトグラファーに撮ってもらったと思いますが、横浜・人・まち・デザイン賞のパネルで使用している写真は、各案件のベストの写真がチョイスされていない場合もあつてもったいないかなと私も思いました。多分、庁内の他の部署でもいい写真をお持ちだと思うので。

(関部会長)

手間も費用も少しかかるかもしれませんが、良さを十分に出せていなくてちょっともったいないという意見ですが、どうでしょうか。

(真田委員)

パネルをつくるときにどういう作業でつくっているか分かりませんが、前に私が「石積み学校」という景観保全プロジェクトでグッドデザイン賞を取ったときは、決まってからパネル用にとか広報用に写真を出してくださいと後から言われて、確かに応募するときは適当にとか、もしくは他薦だったりするとあれですが、広報用にちゃんとした写真は求めたほうがいいかもしれません。

(関部会長)

課題についてたくさん意見が出ましたが、私もこれまでの各委員からの意見を伺っていて感じたのが、この部会の名前は表彰広報部会となっていますが、広報って何を広報するのか、どういうことなのかと。多分、具体的には受賞作品のパネル展とか、次回のためにまたリーフレットをつくって載せていくとか、いろいろやられていると思いますが、先ほどの話にあった、広報のためのパネル展の広報があまりうまくいっていないという、ちょっと逆説的なことがあつたり、その辺は次回に向けて少し工夫をして欲しいと思います。例えばこの賞に選ばれた作品のリストがありますが、実際にそれに関わられたいろいろな方、施主の方、設計者、施工者、あえて言えばマネジメントしている方なども

含んでいるので、そういう方に少し、先ほどの受賞した結果のメリットはどうなのかみたいなことがありますけれども、受賞された方にも次回のために広報を少し手伝ってほしいみたいなアプローチがあつていいのではないかと感じます。具体的にどのようにやったらいいのかわかりませんが、受賞作品に関わられた方、人あるいは会社で少し広めていただきたいと思います。

それから、いわゆる市内の建設関係の業界団体の中で横浜市建築士事務所協会というのはちょっと関わりがあつて、何度かそのスタッフの方とか協会を運営されているメンバーの方と話をしたことがあります。各地域ごとの部会みたいなものがある、そこで自分たちの仕事を推進するというのではなくて、ある程度公的な価値に貢献しようといういろいろな活動をボランティア的にされているセクションもあるので、そういうところを通じて、応募自体をということではなくて、募集を実施していることを広めていただく、表彰の広報の一端を担っていただくということもあるかなと思った次第です。

(関部会長)

私は過去の募集リーフレットに部会長としてコメントを載せたのですが、この文章があまり魅力的でないかもしれないので、個人的にちょっと責任を感じています。定番のことしか書いていないので、分かりやすく、かつ、応募してみようみたいなことになるような文章を心がけたいと思っています。

ほかに関心ありますか。いつもこの部会は非常に活発で意見が途切れることがないので私も発言させていただきましたが、いろいろ課題もあると思います。やはりインターネットを通じての応募がほとんどということなので、だんだん切り替わってきていると思いますから、それに対してアクセスしやすく、セキュリティーの問題もありますけれども、電子申請システムという意見募集などで使っているオフィシャルなもの以外でも気軽にできるようなものですね。これはたしか、応募の資格は全くフリーですよ。子供でもいいし、市外の方でもいいしということなので、そういうのがうまく増えてくるといいですね。でも、あまりやり過ぎて何万件とか爆発的に増えると後が大変かもしれません。

あと、鈴木委員の指摘された、かつては、これはというランドマーク的な、あるいは象徴的な誰でも分かるようなもので、かつ、受賞したことに関してのプレスステージが上がるということがあったと思いますが、今はどちらかというとかジュアルにもなってきているので、その辺は応募があったものを私ども選考委員がどう捉えるかという課題にはなると思います。それから、いわゆる大規模な建築物とか、そういうものはまたそれぞれの業界で受賞の制度もあるので、この横浜・人・まち・デザイン賞は必ずしも建築の作品的な価値のグレードだけでなくもいいと思います。でも、やはり受賞されたもののレベルはきちんとキープしてというのはそのとおりだと思います。

(鈴木委員)

この賞は、景観づくりに誰でも参加できるという感じの賞だと思います。要するに、こういういい景観があつて、またそれが増えていくといいなという感じで、市民に対して敷居が高くなくて応募しやすいというのは、それは一つのすごくいいメリットであると思うから、その視点で横浜市としては裾野を広げるということをやっていると思いますので、それは継続してやっていただいたほうがいいと思います。昔、権威的だと、私なんかちょっとびびってしまったような、最初の出発点の頃はすごくお金をかけて、例えばパネル展も、ギャラリーでもないけど立派な会場で、パネル展というよりも展覧会みたいな感じでプロが撮った写真を並べてやっていたからそれなりに費用がかかったのだと思います。誰でも知っているようなすごい建築みたいなものを取り上げていましたけれど、それよりは、今みたいに裾野を広げるという形で活動してこられたので、それはすごくいいと思います。やはり権威的にするにはお金がかかりますからね。でも、表彰式に何回か出て見えています、まちなみ景観部門の受賞者の方にプレートを送りますよ、あれを皆さんすごく喜んで、これはどこにつけようとかおっしゃっているので、事業者などとかそういう方も、小さなプレートでもちゃんと価値があるといううれしいと思ったださっている、それはすごくいいことだと思います。

(大西委員)

横浜に限らずよその街でもそうだと思いますが、いろいろな場面ですぐ「横浜らしさ」という言葉が出てくると思います。今も議論になっているような、横浜らしさに照らしてこういう作品がどうなのかということのも、やはり市民目線と、ある程度生業としているような人からの目線とではまるで違って来る。そういう意味で、今後こういうものも概略のガイドラインみたいなものがないと、横浜らしさがあつてこれはいいねということになっても、なかなか決めるのが難しくなってくるのではないかと感じます。

(関部会長)

この顕彰事業が、理想を言えば、これからつくられる横浜の街並みとか景観がよりよくなるものを生み出す一つのきっかけになるような、そういう力にもなり得てほしいなと思います。これまで10回分の蓄積を見ていくと、ある部分ではなっているとも思うのですが、課題もいっぱいあると思っています。例えば、ちょっと話題はずれますが、先日の第133回横浜市都市美対策審議会のときに、「都市デザイン50周年記念事業について(報告)」の中で、これからの横浜の都市デザインを考えましょうといった「未来会議」の話題がありました。そういうときにこの表彰という事業がどういう役割を今まで担ってきたか、あるいはこれから担うべきかみたいなことも一つの議論のテーマにしていただけるといいかなと思います。

他に、いかがでしょうか。

(鈴木委員)

募集リーフレットの表紙は、第10回の節目だから1回限りということで白にしたのですか。

(関部会長)

そうですね。

(鈴木委員)

そういうことですか。では、また今度ブルーに戻るといことですか。

(奥村係長)

そこも今日ご意見があれば頂きたいと思ってしまして、第8回、第9回が青でやっていた、では、第10回るときにどうするかという議論の中で、青でいいのではというご意見もあれば、第10回で記念だから変えたらどうかというご意見もあり、いろいろあった中で白としたところがございます。その際に、第11回以降どうするかまでは議論にはなっておりませんので、第10回と同じ白でいくのか、または横浜らしい青に戻すのかなど、そういったところもあろうかと思っておりますので、ぜひいろいろご意見を頂ければと思っています。過去の議事録を確認すると、白だと少し分かりづらいのではないかと、壁に貼ったときにあまり目立たないのではないかとご意見もあつたりしたので、そういうのも少し参考にしながらなるかなと思います。

(関部会長)

募集リーフレット自体は、次回の地域まちづくり部門との合同部会の場合でも議論する予定ですか。

(奥村係長)

これからデザイン案を検討させていただきますので、もし今日何かご意見があれば、それも踏まえてデザイン案を検討して、1月下旬の合同部会でお示しさせていただくスケジュールになってございます。

(関部会長)

事務局から、これについてはまだ議論されていない項目など、何か確認はありますか。

(奥村係長)

全体のスケジュールについては前回と同様の案でお示しさせていただいているのですが、それについては特段、このままでよろしいでしょうか。

(関部会長)

来年の5月から2か月間募集して、その後、応募のあったデータを事務局で個票にまとめていただいて、それを見た上で現地視察、選考を経て来年度中に表彰対象が決定して、再来年の5月に表彰式という予定です。随分先まで続きますが、途中で委員のチェンジもありますね。

(奥村係長)

横浜市都市美対策審議会の委員改選が8月にごございますので、委員のメンバーも替わることになると思います。

(関部会長)

分かりました。

(真田委員)

先ほど選考の基準みたいな話が出ましたが、それについては時代が変われば変わっていてもいいのかなという気はするので、とりあえず今は、いろいろ見ると環境の話や、始めた頃にはあまり重要でなかった話も入っているので、これでいいのかなとは思っています。ただ、募集リーフレットに「選考の視点」を載せていて、これを一般の人が見たときに難し過ぎて応募しにくいとか、そういうことにならないのかなというのが気になりました。特に、これを全部満たしていないといけないと捉えてしまうこともあるかもしれないので、どのように表現するか検討していただければと思います。内部的

には、基本はこれでいいと思いますが、外に出すときにこういう言葉遣いでいいのかとか、これを全部と捉えられないようにするとか、もうちょっと応募の敷居を下げるような工夫は要るかなと思いました。

(奥村係長)

事務局としても、募集リーフレットの言葉遣いですとか、少し門戸を広げるではないですが、今、真田委員がおっしゃったように、確かにこれだと「選考の視点」が全て必要なのかというふうに見えなくもないので、たくさんの方が応募できるように分かりやすい表現の工夫を少し検討させていただければと思います。

(関部会長)

これはあくまでも選考する側の要綱ですから、応募される方にとってはもうちょっと違うというか、内容は変えなくても表現はかみ砕いてというか、それも必要ですね。

あと、同じところに「横浜市景観ビジョン」と括弧であります、これも検索しないと分からないので、景観ビジョンを参考にしてほしいということだとすると、少し説明が足りないかもしれませんね。

(真田委員)

「景観づくりの参考となる考え方やアイデア」というのも、応募する人にはあまり関係ない話だと思います。

(関部会長)

応募する方々向けではなく、景観をつくる側に必要な情報ですよ。

(真田委員)

そうですね。何のためにこの情報があるのかなという気はしました。

(関部会長)

「受賞景観の例」というのが一番具体的で分かりやすいです。

(奥村係長)

たしか背景としては、平成31年に景観ビジョンを改定しておりまして、その中で郊外部のまちづくりについても言及していたので、それが少し伝わるといいのではないかといったことで入れたのですが、確におっしゃるとおり、応募する方からするとあまり関係のない話でもあるので、そこは検討させていただきます。

(高村委員)

応募件数が少ないということで、もちろん選考は人気投票ではないので、ちゃんと皆さんが選考するわけですが、応募していただかないことには勝手に賞をあげられないというか、検討できないので、自分たちの好きな、愛する建物をみんなに知ってもらおうよ、みたいな一言があるといいかなと感じました。SNSとかほかの広報物があったとしても、全部の表現を統一する必要はないと思うのです。世代とか対象者に向けてつくるものは変わっていいと思うのですが、今でいうと、自分の推しの建物をみんなに教えて、その中から選ばれるということがもうちょっと分かったほうが。そういう賞があるけれども、それはちゃんとした方がやっている、ちゃんとしたものに対する賞でしょ。みたいなことではなくて、まずは市民の方が、こういうのがありますよというのを教えてもらわないと始まらない賞だというのが分かるといいかなと思いました。

(関部会長)

それにちょっと関連するのかもしれませんが、毎回100件程度ある応募案件の個票というA3判のものを拝見していますけれども、あれを我々が見るだけで終わってしまうのはちょっともったいないなというのがありますよね。どういうものがエントリーされたかという報告みたいなもの、それで別に人気投票するというわけではないのですが、こんなものがありましたといったPRがあると分かりやすいかなと感じています。

(高村委員)

選考の途中の段階で、今現在、こういうものがこれぐらい来ていますという情報は公開してはいいのでしょうか。

(奥村係長)

少し悩ましいところがありまして、地域まちづくり部門だと、自分たちでというのがメインになりますが、まちなみ景観部門だと他薦が非常に多いものですから、自分たちの知らない間に選ばれるというのが多いのです。例えば、途中で今こういうものがありますというのを出した後に幾つか表彰対象が選ばれるわけですが、そうなった場合に、自分たちで応募していないのに勝手に落とされるよう

なことを知らしめることにもなるので、それがどうなのかなというのが気になるころではあります。

(関部会長)

悩ましいですね。あと、資料5の「表彰対象区・受賞件数一覧」は区単位で分類されていますが、特に郊外部の幾つかの区ではなぜ応募がなかったか。そこにはそういうものが全然ないのか、それとも、あるけどまだ発掘されていないのか、あるいはそれに気づいた人がいても応募しないのか、ちょっと分かりませんが、その辺も悩ましいなといつも思っています。

(真田委員)

多分、「まちなみ」という言葉のイメージが強いからというのがあると思うので、そのあたり、先ほどの募集リーフレットですが、写真でもうちょっと郊外ならではのものがちゃんと分かるようにすると大分違うかなと思います。

(関部会長)

そのときに、景観ビジョンでつくった、ゾーンで分けたというのもリーフレットのビジュアルに少し使ってみるとか、あるかもしれないですね。

ほかにご意見はどうでしょうか。いろいろな意見を頂きましたが、事務局でまとめていただいて、そのまとめについて何かご意見があればお願いしたいと思います。

(白井書記)

本当にたくさんのご意見ありがとうございました。もちろん、今日に至る前に事務局の中で議論してみたのですが、それとは比べ物にならないぐらいの数や切り口のご意見を頂きました。ありがとうございます。

簡単にまとめさせていただきますと、まずは応募件数を増やすことに対する工夫や配慮ということとたくさんご意見を頂きました。例えば募集リーフレットの配布場所であるとか、あとはアプローチする相手方の属性の検討など。方法については、SNSで写真だけでもオーケーのような、応募のハードルを下げたあげる配慮が必要ではないかというご意見もありました。それから、受賞後の反響も紹介するとまた次の応募に結びつくのではないかというご意見、パネル展のパネルや募集リーフレット自体の質やグレードについてもご意見を頂きました。それから、募集リーフレットの内容について、堅いイメージというか、とても難しいことを求められているようなイメージがあるので、中身についてもハードルを下げたあげるような工夫が必要ではないかというご意見を頂きました。それから応募件数も、とりわけ郊外部につきましては、これも募集リーフレットの中で受賞例とか事例の写真といったことで、郊外部の応募につながるような配慮が必要なのではないかというご意見を頂きました。それから、応募の数を増やすこと以外にご意見があったのが、賞のステータスというのですか、これについて、かつてはかなり高かったものが、昨今、どちらかという親しみやすいほうに振れてきているのではないかということで、そこはどちらがいいというわけではないけれどもということと、課題の提起がございました。

たくさんご意見を頂きましたので、頂いたものを1つずつ吟味させていただきまして、次回の地域まちづくり部門との合同部会までに事務局案としてまとめさせていただいて、改めてご提案させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

以上で議事1は終了となります。

議事2 その他

なし

閉会

(関部会長)

それでは、次回の日程について事務局から説明をお願いしたいと思います。

(白井書記)

今回は地域まちづくり部門との合同部会ということになりまして、令和5年1月頃の開催を予定しております。候補日として、事前にお知らせさせていただいたかと思いますが、1月24日火曜日の午後と、27日金曜日の午後ということでご案内させていただいております。日程については地域まちづくり部門と調整の上、改めてご連絡させていただきたいと思っております。日程については以上です。ま

	<p>た、本日の議事録につきましては、部会長の確認を得た上で公開させていただきます。</p> <p>これをもちまして、第21回都市美対策審議会表彰広報部会を終了いたします。ありがとうございます。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第、参加者名簿 ・資料1：横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門の概要について 別添：記者発表資料、表彰式の様子等 ・資料2：第11回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール（案） ・資料3：第10回横浜・人・まち・デザイン賞 まちなみ景観部門の選考方法について（案） 別添：個票（案） ・資料4：募集に関する広報について（案） 別添：第10回募集リーフレット、ポスター ・資料5：横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門 表彰対象区一覧 ・資料6：賞の課題に対する対応について ・参考資料1：表彰広報部会設置要綱 ・参考資料2：横浜まちづくり顕彰事業実施要綱 ・参考資料3：横浜まちづくり顕彰事業実施細目
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録については、部会長が確認する。 ・次回は、地域まちづくり推進委員会表彰部会との合同部会を令和5年1月に開催予定。